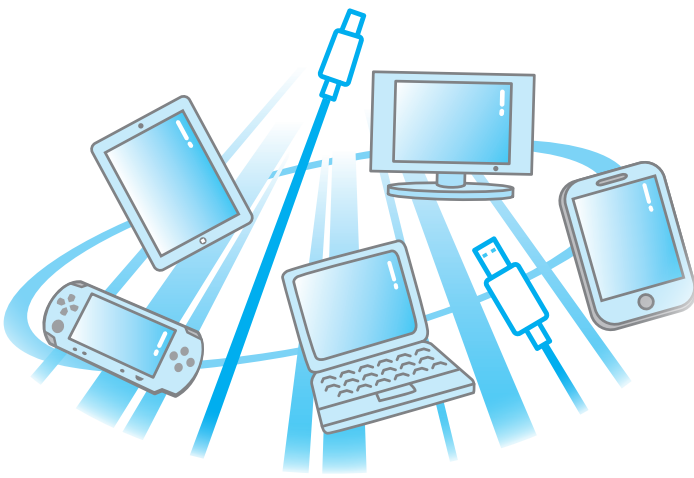


欧州ICT社会 読み解き術



これが、スイスインフォの選んだ道…の巻

外国在住スイス人向けのラジオ放送として始まったスイスインフォは、スイス公共放送協会（SRG）の国際サービスの名称だ。それが、今日では、ラジオを離れ、ウェブ上のメディアプラットフォームに進化を遂げた。しかも世界に向けた情報提供というサービスの核心を変えないままである。情報化時代に、ラジオはどう変化していくのか？ その一つのあり方が、スイスインフォに見られるのではないか。スイスインフォの企画担当、クリストフ・ブルツタン氏に、詳しい話を伺った。



情報化社会の
CSRナビゲーター

栗崎 由子

スイスインフォの歴史

スイスインフォは、国際短波放送として始まった。一九三五年八月一日、スイス建国記念日に、当時の大統領の声をアメリカに放送したのが、正式な開始とされている。

先立つ一九一九年、国際政治の舞台では、ジュネーブに国際連盟が設置された。そこで、世界平和の中心地として広く世界に、また国外に住むスイス人に向けて情報を発信するためのラジオ局ができたのである。当時は、「ラジオノスタルジア」というニックネームで呼ばれた。

スイス発の国際ラジオ放送は、第二次大戦中と冷戦期には、世界中のリスナーから信頼を得た。中立国スイスのラジオは、どの陣営にも属さない、唯一の公正な情報源だったのである。

こうして、スイスインフォは、在外スイス人には国内の情報を提供し、また、国際的にはスイスの中立を支えるメディアとして、不動の地位を築いた。

ところが、一九九〇年代に入り、

インターネットや衛星放送が普及すると、国際的情報提供は、短波放送の独壇場ではなくなった。

また、政府から、厳しい予算カットの要求が来たため、スイスインフォは、低予算で今まで通り質の高い情報を世界に発信するメディアに変わらなければならなかった。それも、短期間で。

ラジオからの転身

一九九九年、スイスインフォは、ラジオ放送をやめ、ウェブサイトをプラットフォームとして、多様なメディアを包含する情報サイトとして再生した。ウェブサイトに変えたのは、経費が安いからだ。たと、ブルツタン氏は語る。

ラジオからウェブという技術も視聴者とのコミュニケーションのあり方も、まったく違うビジネスへの転換だ。これは大規模なリストラだが、レイオフはなかった。ラジオのスタッフが一丸となり、ウェブの仕事しながら必要な知識を学び、経験を積んだというから、驚く。

ウェブサイトになっても社風は

変わっていない、とブルツタン氏は胸を張る。今でも、ラジオ時代と同じように、スイス発のニュースの公正な視点と、情報、技術の質の良さを誇っているのだ。

マルチメディア戦略

現代のコミュニケーションの潮流をにらんだ、スイスインフォの目標は二つ。一つは、モバイル機器に対応すること。もう一つは、事件・時流の変化に敏しように対応することだ。



▶現在、スイスインフォは、日本語を含む10カ国語で、テキストの他、ビデオ、写真、スライドショーなど、多様なメディアで、スイスの情報を提供している。スイスインフォの日本語サイト→<http://www.swissinfo.ch/jpn/index.html>

前者については、モバイル向けのコンテンツを提供するかどうかが、現在試行中。

そして、敏しようであるためには、ソーシャル・メディア、特にフェースブックを活用している。スイスインフォは、フェースブックの読者と直接対話ができる点を高く買っている。フェースブックには、一〇カ国語でスイスインフォのファンページがあり、情報の提供とともに、ファンからの情報も得ている。書き込みを直接報道することはないが、「アラブの春」等、時々刻々変化する状況を、現場から入手できることは大きい。スイスインフォは、ソーシャル・メディアの双方向性を、そのエンジンにしているのだ。

ところで、スイスインフォは、コミュニティーマネージャー（五月号参照）を置いていない。各国語担当の記者がそれぞれの言語のサイトを管理、活用している。「私たちは、読者と（直接）対話をしない」と語るブルツタン氏の言葉に、報道機関にとってのファンページ

は、販売企業のそれとは役割が異なることを感じる。

多言語はスイスの強み

スイスインフォには、一〇の言語についてそれぞれ、各言語のページを担当する合計六〇人の記者がいる。その記者全員に共通の言語がないことが、日々の仕事を回していく上での悩みと、ブルツタン氏は苦笑いするが、多言語の人材を国内から雇用できるところが、スイスのすごさだ。国際性の高いスイスの社会資源の豊かさを、垣間見る思いがする。

ちなみに、二〇一二年現在、スイスに住む外国人は、総人口の二三％。国際結婚によるスイス国籍取得など、スイス国籍を持つ外国人を勘定に入れると、この割合はもっと増えるだろう。

世界に向けて情報発信を

ソーシャル・メディアの発展など、急激なメディアの変貌により、コミュニケーションの習慣は変化しつつある。その中で、スイスインフォがどのように変化するのか、将来を見守りたい。

ただし、ここで忘れてならないのは、ラジオからウェブへとメディアは変わっても、スイスインフォの一貫した情報戦略の基本は変わっていないことだ。

それは、情報を発信することにより、外国からの理解を得るということである。スイス発の国際ニュースは公正中立という評価と信頼は、今も同じだ。それは、また期せずして、欧州の中央に位置し、大国（軍事的には強国）に囲まれたスイスの軍事力を使わない、ソフト・ディフェンスにもなってきたのではないだろうか。

現代の日本にとって、スイスのような情報発信に積極的な姿勢は、ますます必要になっていと思える。情報化社会の国際戦略は、積極的に情報を出していくことにある。日本にとって、隣国との距離が縮まるに依り、国際世論を味方につけたい場面は増えている。日本人も活発に国外に情報を発信して、外国との相互理解を深め、世界とより良くつながってほしい。